



ラッキョー  
カレー

シゲタサヤカ





こちらは ペコペコさん。  
きょうも しごとが おわって  
おなかは ペッコペコ。

なべには のこりものの  
カレーが  
ちょうど ひとりぶん。

ということ、  
ばんごはんは カレーライスです。



「いったただっきまーすつと  
おっと！  
ラッキョウを わすれてた！」

いけません、  
カレーライスには  
ラッキョウが つきものですからね。

ペコペコさんは せきを たち……

ラッキョウを てに  
ふたたび もどってくると  
おやおや、  
なにやら おかしな ことに  
きが つきました。

カレーライスの  
カレーだけが  
きれいさっぱり  
なくなっているのです。



「えっ？」

なんで？ えっ？ えっ？」

ペ「ペ」さんは わけが わからず おおあわて。

？  
？  
？

「だっ… だれかに たべられたのかな？」

いえいえ、

「」に いるのは ペ「ペ」さんだけ。

「そっ… そとから ぶるぼるが

はいってきたのかな？」

あわてて まごを みてみると……



「えっ!？」

なんと カレーが にげだすところ!

とっさに「ペロペロ」さんは さげびました。

「ちょっと まって! おれの カレー!」



「いやだよ！ だって おじさん、どうせ ぼくを たべるんですよ？」

「たっ たべないよ！ たべないから まって！」

「ほんとうに？」

「ほんとうさ！ ほんとうに ほんとうさ！」

ああ ペコペコさん、

おもわず いきおいで ニーろにもないことを いってしまいました。

ほんとうのニーろ

さっきから もうずっと

おなかは ペコペコ。

いますぐにでも

たべてしまいたいというのに！



そうとは しらずに カレーは

「よかったあ ぼく たべられないんだね〜!」

と、ホツとした かおで おさらに もどりました。

そして いったのです。

「あらためまして、  
ぼく カレーだよ。」

いやあ、

おじさんが いいひとで  
たすかっちゃった!

ぼくは ラッキーだなあ、  
ラッキーカレーだね!」

「う…」

うん…… そうだね……  
よかったな… うん……!」

しかし、

ペコペコさんのおなかは  
もう がまん の げんかい。



とぅとぅとぅ

ブ  
ウ

と おおきな おとが!

すると カレーが

「あっ そっか そっか!」

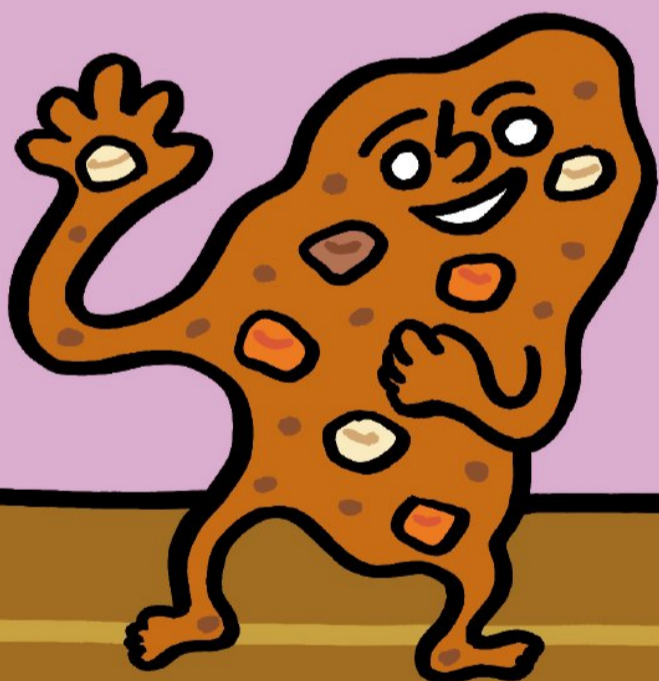
おなか へってるよね おじさん!

そうだ!

おれいと いっちゃ なんだけど

ぼくが カレーを つくってあげるよ!

「ええっ!」



「カレーがカレーをつくるのか……?」

こんらんする ペコペコさんを よそに、  
カレーは のこっていた ざいりょうで  
てきぱきと カレーを つくりはじめます。

「おい、やけに てぎわが いいんだな」

「うん。」

だって ぼく カレーだもん。

よし できたよ!

さあさあ

おじさん

いっしょに

たべようよ!」

「カレーが つくった

カレーを

カレーと いっしょに

たべるのか……?」

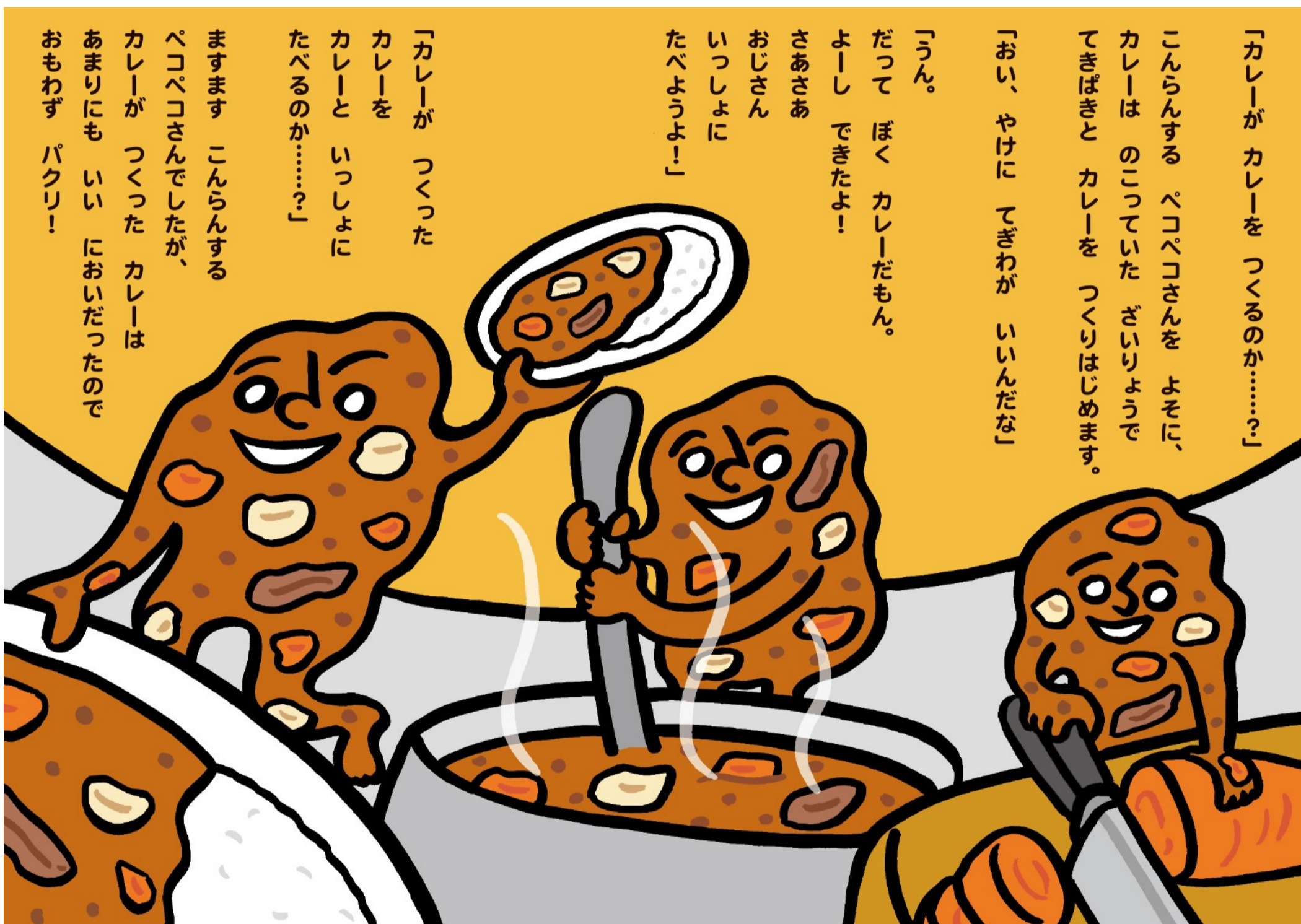
ますます こんらんする

ペコペコさんでしたが、

カレーが つくった カレーは

あまりにも いい においだったので

おもわず パクリ!



「なんだ これは!」

ペコペコさんは  
おどろきました。

『いままで じぶんが  
たべてきた カレーは  
いったい

なんだったんだろう?』と

おもうくらい

カレーが つくった カレーは

とんでもなく おいしかったのです!

ペコペコさんは

いつきに カレーを たいらげ いました。

「たのむ!」

あしたから おれの みせで はたらいてくれ!

おきやくさんにも この うまい カレーを

たべさせたいんだ!

そうそう、

いいわすれていましたが

ペコペコさんは カレーやさんなのです。



さっそく つぎの ひ、  
カレーは  
ペコペコさんのおみせに たち  
おおはりきりで  
カレーをつくりました。

しかし、  
おみせに きた  
おきやくさんたちは

「おい… なんだ あいつは？」

「あやしい！ あやしすぎるー！」

「カレーが カレーをつくるだと？  
どうなってるんだ？ いったい……」

だれも かれもが げげんな かお。  
まあ むりも ありません。





けれども

おいしそうな においに つられて

ついつい カレーを

ひとくち たべれば

「おいしい！」

「こんな カレー たべたことない！」

「おかわり ください！」

「やまもり ください！」

たちまち あふれる この えがお。

こうして カレーが つくる カレーは

たちまち ひょうばんとなり、

それから カレーは カレーやさんの

かんばんカレーとして

まいにち せっせと

カレーを

つくっています。



あまりの にんきに、とうとう ペコペコさん、  
おみせの なまえも かえちゃいました。

そのなも 『ラッキーカレー』です。

あたらしい かんばんを みた カレーは

「わあ〜！ ぼくが いる〜！」

と、てれくさそうに わらいましたとき。

おしまい

## シゲタサヤカ

絵本作家／1979年 神奈川県生まれの群馬県育ち。  
2009年『まないたにりょうりをあげないこと』（講談社）で  
絵本作家デビュー。

主に食べ物を題材とした、親子でクスッと笑えるユーモア絵本を制作。  
絵本作品に『オニじゃないよおにぎりだよ』（えほんの社）、  
『いくらなんでもいくらくん』（イースト・プレス）、  
『カッパもやっばりキュウリでしょ?』（講談社）、  
『わりばしワリーもういいよ』（鈴木出版）、  
『おいしいほうし』（教育画劇）  
などがある。

おいしいカレーのお話はいかがでしたか？  
このカレーはとってもラッキーでしたが、  
ひょっとしたら本当にラッキーだったのは  
ペコペコさんのほうかもしれません。  
それにしても「カレーがつくるカレー」、  
一度でいいから食べてみたいですね。

シゲタサヤカ

## ラッキーカレー

2019年4月発行

監修：日本マクドナルド株式会社

©2019 Sayaka Shigeta ©2019 Shogakukan ©2019 McDONALD'S Printed in China  
THH  
B1E

本書の無断複写・複製・転写は禁じます。  
造本には十分注意しておりますが、印刷・製本など製造上の不備がございましたら、お近くのマクドナルドにご連絡ください。